

静岡市へのLRT導入に関する 提言書（研究成果）

平成23年12月27日（火）

静岡市LRT導入研究会

会長 久保田 尚（埼玉大学大学院 教授）
後藤 康雄（静岡商工会議所 会頭）
三浦 孝文（静岡鉄道株式会社 専務取締役）
清水喜代志（静岡市 副市長）

静岡市LRT導入研究会からの提言（研究成果）

○静岡市の将来を見据えた交通ネットワークの構築や、効率的な都市経営、効果的な都市基盤整備を図っていくためには、環境負荷の軽減、超高齢社会の対応、中心市街地の活性化などに効果が期待できるLRTの導入と、その沿線でのまちづくり施策の実施により、「静岡型コンパクトシティ」の実現を図るべきである。

【LRT導入により期待される効果】

- ◇人や地球にやさしい「環境」づくり
- ◇コンパクトで歩いて暮らせる「健康」なまち
- ◇LRTのシンボル性と観光資源の連携による「交流」人口の拡大
- ◇商業や沿道開発の推進により都市の魅力を高めた「賑わい」の創出

○LRTの実現に向けては、市民の合意が不可欠である。その上で、市民・経済界・鉄道事業者・市がそれぞれの役割を踏まえ、一体となった連携・協力が必要である。

【それぞれの役割】

- ◇「市民」
LRT導入の協議への参加、需要の創出（積極的な利用）、都心部への自動車流入抑制などの協力
- ◇「経済界」（静岡商工会議所）
沿線開発、需要の創出（通勤利用）などの協力
- ◇「鉄道事業者」（静岡鉄道）
技術、設備、人材などの協力、運営
- ◇「市」
市民への情報提供、意向把握、啓発活動、整備の推進

○LRTの実現には、「需要の確保」、「都心部への自動車流入抑制」、「静岡鉄道との結節」、「JR横断及び静岡駅、清水駅との結節」などの課題解決が必要である。
その課題が解決されたルートから、導入に向けて取り組む。

【静岡地区の課題】

都心部への自動車流入抑制、静岡鉄道との結節、JR横断及び静岡駅との結節

【静岡地区の課題対応策】

- ◇都心部への自動車流入抑制、迂回ルートの確保
- ◇歩行者主体のまちづくり（江川町交差点平面横断化等）
- ◇新静岡駅での結節方法の決定
- ◇JR横断箇所及び周辺交通処理の決定、JR静岡駅前広場の改修

【清水地区の課題】

需要の確保、静岡鉄道との結節、JR清水駅との結節

【清水地区の課題対応策】

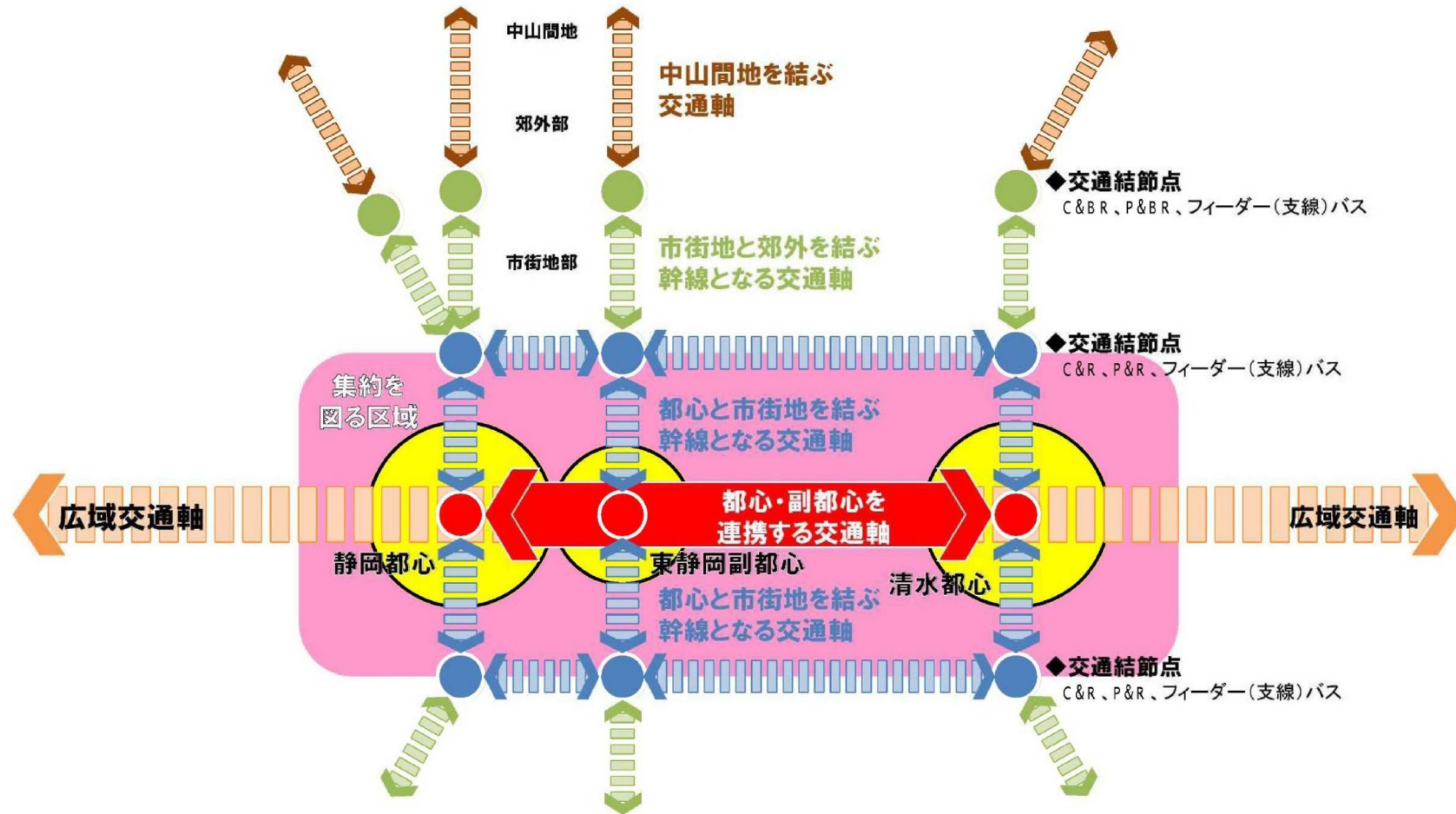
- ◇民間集客施設の立地、誘致の見通し
- ◇沿線事業所の通勤をLRT利用に転換誘導
- ◇市民の定期利用者確保
- ◇新清水駅での結節方法の決定
- ◇JR清水駅前広場の改修

○LRTは、静岡鉄道の施設と同様の規格・仕様にすることで、線路への乗り入れが可能となり、様々な効果が期待できる。

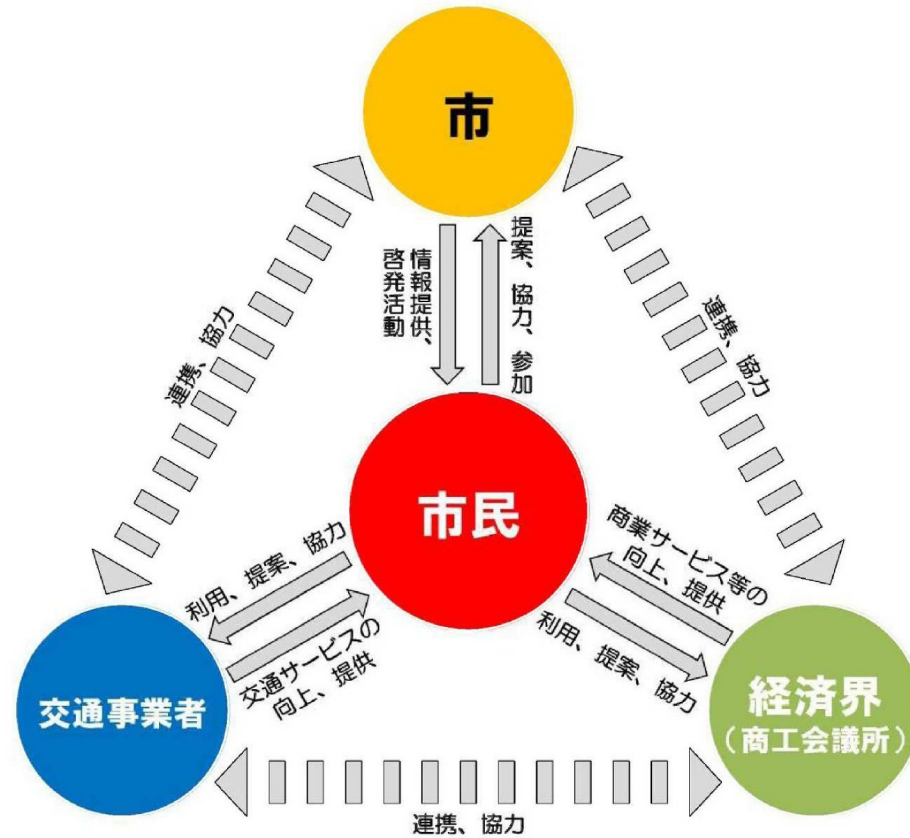
【乗り入れにより、期待される効果】

- ◇整備コストの縮減
- ◇公共交通ネットワークの構築
- ◇沿線まちづくりの推進
- ◇需要の拡大
- ◇都心間交流の促進

公共交通ネットワーク構想

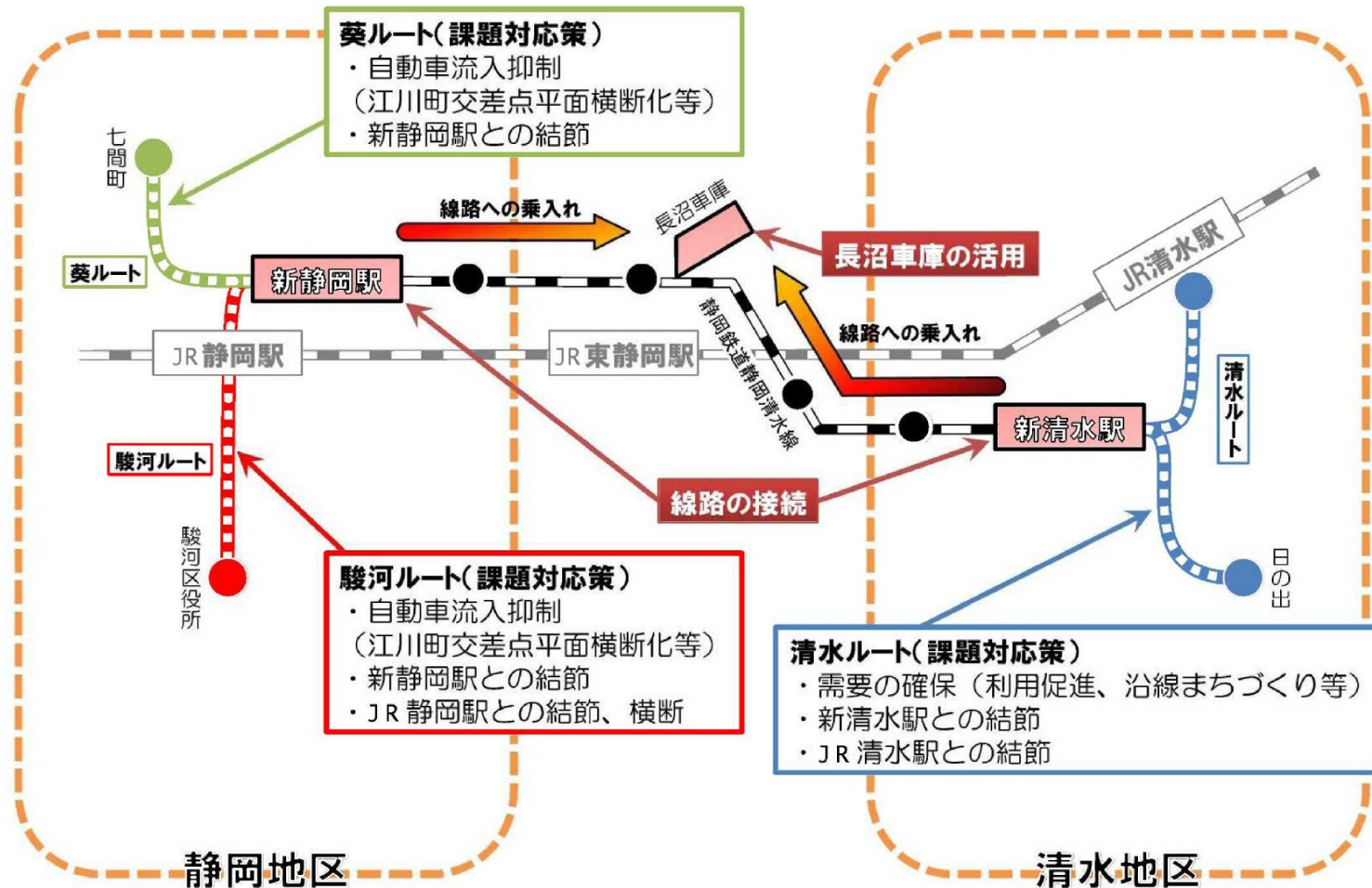


実現に向けての連携・協力体制



市民・経済界・交通事業者・市との協働

導入に向けての課題への対応



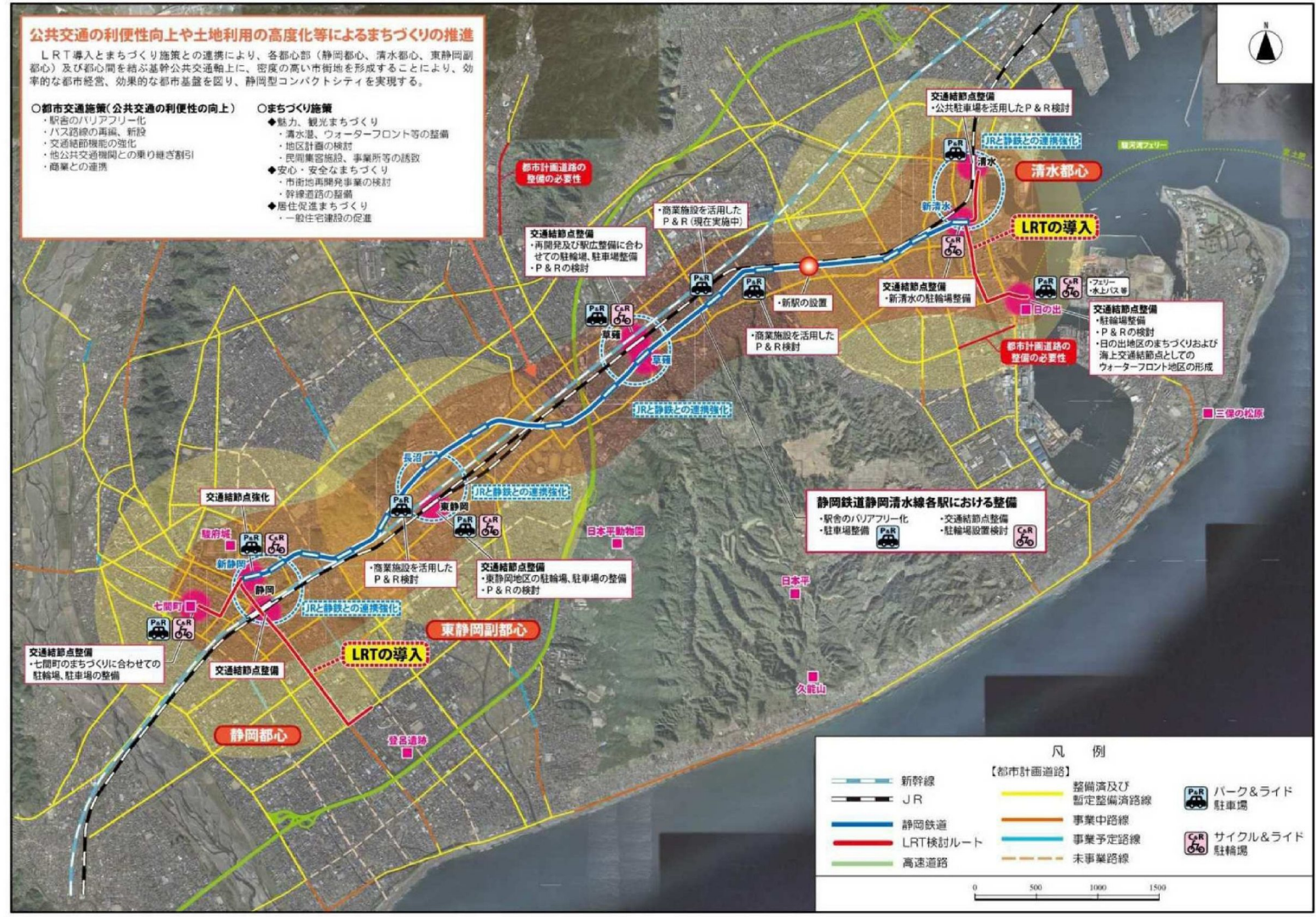
LRTの実現 ⇒課題が解決されたルートから整備に着手する。

「静岡型コンパクトシティ」の実現

公共交通の利便性向上や土地利用の高度化等によるまちづくりの推進

LRT導入とまちづくり施策との連携により、各都市心（静岡都市心、清水都市心、東静岡副都市心）及び都市心間を結ぶ基幹公共交通軸上に、密度の高い市街地を形成することにより、効率的な都市経営、効果的な都市基盤を図り、静岡型コンパクトシティを実現する。

- 都市交通施策（公共交通の利便性の向上）
 - ・駅舎のバリアフリー化
 - ・バス路線の再編、新設
 - ・交通結節機能の強化
 - ・他公共交通機関との乗り継ぎ割引
 - ・商業との連携
- まちづくり施策
 - ◆魅力、観光まちづくり
 - ・清水港、ウォーターフロント等の整備
 - ・地区計画の検討
 - ・民間業者施設、事業所等の誘致
 - ◆安心・安全なまちづくり
 - ・市街地高層ビル事業の検討
 - ・幹線道路の整備
 - ◆居住促進まちづくり
 - ・一般住宅建設の促進



凡例

	新幹線		整備済及び暫定整備済路線		パーク&ライド 駐車場
	JR		事業中路線		サイクル&ライド 駐輪場
	静岡鉄道		事業予定路線		
	LRT検討ルート		未事業路線		
	高速道路				

0 500 1000 1500